

楽劇

行きゆんにや加那

(楽劇『ネリヤカナヤへ——奄美シマ唄物語』スペシャルバージョン)

公演会場 二〇一六年四月一七日 関西奄美会大会

公演時間 一五分

出演者

唄者	栄百々代・岩尾優子
唄者	シーガン山下
男	里朋樹
女	中井望希

映像編集者 森直弘・

プロジェクター操作映写責任者

「いきゆんにやかな」を、栄百々代・岩尾優子、シーガン山下、里朋樹の、三者三様の歌い方を味わい楽しむというのもこの楽劇の面白さのポイントの一つである。

***間1** 舞台真っ暗

***「行きゆんにや加那」の一番がアカペラで響きだす(栄百々代)**

行きゆんにや加那 かな 吾きや わ 事 くウとわす 忘れてい 行きゆんにや加那

ウツた 出發ちや ウツた 出發ちやむん 行ーき ぐ 苦しや

ソーラ行ーき ぐ 苦しや

***間2** スポットが当たり、舞台そでに二人の男女が浮かび上がる

同時に、スクリーンに奄美の海・空・植物(ガジュマル・ソテツ・山の芭蕉・シダ・ツワブキ・花等々)のショットが次々と大写しになる

女 あんた! もう一度教えて! 奄美の言葉、シマロで。あのフレーズ

男 「行きゆんにや加那 かな 吾きや わ 事 くウとわす 忘れてい 行きゆんにや加那」

(ゆっくり口ずさむように)

女 「いつちやうの、好きな人、あたしのこと忘れて、いつちやうの」、そうゆうたんやな!
男 「加那」つちいうのは、恋人にかぎらんちよ。愛する相手なら、可愛いヤツなら、みんな「加那」じゃ。たとえば自分の子供とか孫、近所のちよつと気を引くオネエチヤン、オバ、兄さん。みんな。それに男も女も相手をそう呼ぶつちよ、「加那」つち。でも加那中の加那はやっぱし恋人じゃや。

女 確か、こう続くんよね。「出てゆくや、出ていつちまうんやぞ、行くのは苦しいんや! 心が! 無理して行くんや!」

男 「ウツた 出發ちや ウツた 出發ちやむん 行ーき ぐ 苦しや」(ゆっくり口ずさむように)

***間3** 二人の男女に当たっていたスポットが消えたと思うや、

今度は舞台中央に当たる。するとそこには唄者二人が(このとき写真も消え、唄に集中する劇場空間になる)

行きゆんにや加那 かな 吾きや わ 事 くウとわす 忘れてい 行きゆんにや加那

ウツた 出發ちや ウツた 出發ちやむん 行ーき ぐ 苦しや

ソーラ行ーき ぐ 苦しや

***間4** 唄者二人へのスポット消える。

写真突然映りだす。尼崎の昔の写真

スポット、舞台そでの二人の男女に当たる

男 島の歴史は別れの歴史ど！ 島にいたんじゃ食えんっしや。家を継ぐやつ以外はみんな外に出るしかないわけよ。それに食えないだけじゃやないっちよ。ヤマトには、
女 あっ、本土のことやろ、奄美は昔から本土のことを「ヤマト」って呼んできたんやなあ！

男 そう！ ヤマトには職が、可能性が、チャンスが、欲望が、最先端のもの、うつくしいもん、お手本があるっちよ。脂ぎってテカテカ輝いてるっちよ。

女 でも、昔は、島を出るってのは今生の別れみたいなもんちゃうの？

男 それでもや、行ってみるしかないわけよ！ 「クソ、やってやるぞ」の「ストグレ魂」でやらんと食えんしや！

***ワントンポおいて（ふと、男、心が故郷にひとり遠って、女がいることも忘れたように、両親に想いをさせるように、ゆっくり、口ずさむ）**

男 「アンマとウジュウ むぬむエ 物想や しんしよんな アンマとウジュウ
くむイ 米とウてい まむイ 豆とウてい 召みしよらしゅんど
「

***このとき突然、映像変わる、歌詞に合わせシマの年寄りたちの顔のショット次々と**

女 奄美の「行きゆんにや加那」は親思いやなあ！ 「アンマ」ってお母さんのことやろ？
「ジュウ」がお父さん。「おかあさん、おとうさん、物思いしなさんな、心配せんとって、うちが稼ぐんやから！ 米とって、豆とって、お召し上がりくださいな」ってゆってんやろ、いまのフレーズ。

男 親思いの情と、恋人思いの情と

女 「愛」って、結局その二大柱でできとんやなあ！

（女のセリフの間中、万歳している老女の写真、それで終わる。）

***間5 ワントンポおいて（女の言葉に答えるように、また、ゆっくり、口ずさむ）**

「このとき写真切替わる。立神のショットを中心に奄美の浜風景、夕暮れの海や浜

（少女の開けた口の間に夕日）の写真で始まり男のアカペラの終わりまで）

男 「泣なきゆん鳥とウリ つぐわ 立神沖たちがみつきなんてい 泣なきゆん鳥とウリ つぐわ
吾わきや加那かな やくむいが 生いきまぶりが
「

男 「やくむい」っちあつたる。あれ「そのいいお兄さん、アンさん」のことど、女にとっての恋人のことよ。「生きまぶり」っちば、生きてるマブリのこと。

女 「マブリ」って？

男 魂よ、靈魂のこと。

女 て、ゆうことは、「泣いてるわ 鳥たちが 沖に立つ、神さまの岩のまわりで 泣いてるわ、鳥たちが あたしの好きなあんさんの魂、生霊にちがいないわ！ あの泣き声！ ほらあんひとの魂が泣いてるんや！ あれは」ってゆう意味やな。

***間6** 二人へのスポット消え舞台は暗くなる。唄者二人舞台上に登場し、音を落とした三味線の前奏が始まる。

前奏が始まると、「少女の掌に夕日」の写真になり、それがずっと続く。

唄に入る直前、音が強くなった瞬間、映像が消える。スポットが舞台中央の唄者二人に投げられる。唄が始まる。

アンマとウジユウ 物想や しんしよんな アンマとウジユウ
米とウてい 豆とウてい 召しよらしゆんど
ソーラ 召しよらしゆんど

泣きゆん鳥つぐわ 立神沖なんてい 泣きゆん鳥つぐわ
吾きや加那 やくむいが 生きまぶり
ソーラ 生きまぶり

***間7** 唄が終わると、スポットは消える。唄者二人は退場。ワントンポにおいて、スポット袖の男女二人に当たる。

*** 同時に、戦後の奄美の港での別れのショット写真が次々と映し出されてゆく。代わりにシーガン山下とカホン叩き登場、椅子いれかわる。**

女 あんたさつきゆうたやん。島の歴史は別れの歴史やて。
うち、こんな思い出もつてるねん。与路島に遊びに行つてな、帰りのフェリーが出るときのことなんや。男の子が親と一緒に見送りに来てた。デッキのおじちゃん、親戚の人かな、そんな人を見送りに。出航の汽笛が鳴つて、フェリーが離れて、男の子が「めつちや両手を振りながら、さあーよおーならああ、つて、栈橋の端まで走るんや。うち、ほんまは笑つた。おおげさすぎるやん、つて。でもな、見てたら、なんか変に懐かしくなつてきてな。いいな。あんなふうに見送りたいな、あんなふうに見送りたいな。大事な別れや、大きな心、差し出さな。ケチケチすんな！ アホンダラ！ そう思つてた。うち

人の歴史は、奄美の人にかぎらず、別れの歴史とちがうかな？

男 わん、「出会いの歴史」のほうでいききたいや。

女 あんた、まだ子供ちゃんやで。それ！

男 わんの婆ちゃんが言ってたつちよ。昔はや、フェリーもない、飛行機なんかもちろんない。島の人間は汽船で行き来してたつち。ヤマトとシマをや。汽船出るときは、ポケットと手さげ袋から、ありったけテープ取り出してから、見送る方も、見送られる方も、投げ合って、栈橋とデッキ、走って拾いあって、指ちゆう指に巻きつけてから、それが切れるまで声掛け合ってたつち。だいたいの人が、船が水平線に消えるまで見送ったんどう、つち。

***間8 スポットが、舞台中央に切り替わる。シーガンのアレンジの「行きゆんにや加那」が始まる。ギターとカホンで。**

行きゆんにや加那 吾きや事忘れてい 行きゆんにや加那
汝きやくとう 思えば 行いき 苦しや
ソーラ 行いき 苦しや

泣きゆん 鳥 立神沖なんてい 泣きゆん 鳥 っぐわ
汝きや加那 やくむいが 生きまぶり

ソーラ 生きまぶり

アンマとウ ジュウ 物想や しんしよんな アンマとウ ジュウ
米とウてい 豆とウてい 召しよらしゆんど
ソーラ 召しよらしゆんど

***舞台段々フェイドアウト**

***シーガンの唄が終わって、30秒真っ暗なまま
あかりつき、**

**出演者全員、観客席へ一礼、
公演の終了を告げる。**